

# ひょうごため池だより

- 第1回ひょうごため池保全推進フォーラム
- 「かいぼり」でため池と豊かな海を守る
- ため池保全県民運動この人に聞く（第1回）  
ため池クリーンキャンペーン活動20周年を迎える釜谷池協議会



平成29年3月  
**創刊号**

発行 / 兵庫県 農政環境部 農村環境室



兵庫には、全国で最も多い約3万8千か所のため池があります。これらの多くは、農業に欠かせない水を確保するため、古くは7世紀から先人たちが膨大な時間と労力をかけて造りあげ、受け継いできたものです。そして豊かな自然の一部として、多様な生物が棲む空間となり、洪水調整や景観形成の役割を果たすなど多面的な機能を担ってきました。

しかし近年、農業者の高齢化や担い手の減少などにより、維持管理が十分に行えない状況が見受けられるようになってきました。今こそ、ため池の役割を改めて考え、暮らしの中で守り、活かし、次代へと繋いでいかなければなりません。

兵庫県では、平成27年に「ため池の保全等に関する条例」を策定し、県民一人ひとりがため池保全に取り組む「ため池保全県民運動」を推進しています。

このたび創刊した「ひょうごため池だより」もその取り組みの一つ。管理者の皆様へ、ため池の保全に関する様々な情報提供を行うとともに、皆様の日頃感じておられる問題やご意見をお寄せいただき、本県の取り組みに活かしていきたいと考えています。

ため池は地域の大切な財産です。ともに力を合わせ、「安全安心で豊かなため池」を創っていきましょう。このお便りを通じて、ため池への理解がより深まり、ため池の保全に取り組む人々の輪が大きく広がっていくことを願っています。



平成29年3月

兵庫県知事 井戸 敏三

# 第1回ひょうごため池保全推進フォーラム開催

兵庫県主催による「ひょうごため池保全推進フォーラム」が、平成28年8月7日に、稲美町立文化会館コスモホールで開催された。県内全域から、ため池管理者をはじめ関係者が参加した。講演と優良事例の発表があり、会場参加者との意見交換も行われた。

## 「明日から取組むため池保全」ため池管理者 約700名参加

中瀬勲館長（兵庫県立人と自然の博物館）の、「兵庫県のため池保全のめざすところ」と題した講演は、自身がこれまでため池保全に深く関わり得た知見に基づいて、ため池保全条例の改正や、県民運動の取り組みなど、本県におけるため池保全の方向性を説明した。

また、県内には多くのため池があるが、地勢や周辺の開発状況、規模や受益面積など、ため池を取巻く状況は、それぞれ異なり多様である。従ってため池毎にその保全方向を考える必要があると述べた。

講演の最後に、『日本三景（天橋立・松島・安芸の

宮島、近江八景いずれも日本人が風光明媚とする風景は水にまつわるものであり、兵庫のため池についても県民運動を進めな

から「ひょうごのため池八景」をめざし描くのはいかがでしょうか。』と管理者の保全活動に対するエールが送られた。

## ため池保全に関する4つの事例発表

### ① ため池の保全・活用に関する高校生からの提案

県立農業高等学校 脇エリカ 北野いづみ

校内のため池研究会に所属し日々活動している。身近にある寺田池での保全活動や研究を紹介した。また、現役高校生の立場から、ため池を「観光資源」に活用するなど提案した。

### ② 直谷池の適正管理

朝来市 久田和区 畠山裕次 野口義栄

平成27年度から、ため池保全県民運動のモデル地区として、積極的な活動に着手した。

地域の財産として、これまで守り続けてきたため池を将来に継承するため、かいぼりや自然観察会をきっかけに世代を越えた交流を図るなど、地域一体となった保全の取り組みを報告した。

## 会場旗揚げアンケート実施

事例発表の合間に、会場の参加者に対して旗揚げ方式により、管理に関するアンケートを実施した。

- Q. ため池の管理に農業者以外の地域住民が参加しているか。
- A. 「農業者以外の参加がある」・・・3割
- Q. 管理するため池は、地域の宝、ふるさとの宝だと思っているか。
- A. 「そう思う」・・・6割
- Q. フォーラムのサブタイトル通りに、明日から何らかのため池保全活動に取り組もうと思ったか。
- A. 「そう思った」・・・6割

### 中瀬館長のコメント

- ① 今後、ため池の管理に農業者以外の方々の参加する割合が、高まる可能性があり楽しみである。
- ② 半数以上の方が明日から何らかのため池保全に取り組もうと考えており、このフォーラムを契機に実践していただきたい。

### 中瀬館長の総括コメント

中瀬館長からは、以下の3点についてコメントがあった。

① 若い世代が、日頃の保全活動を通じて、地域に溶け込み、見慣れた風景となったため池を「観光資源」というキーワードで捉え、地域の活性化を図る手法を真剣に考えていることは非常に素晴らしい。

② いずれの事例も、地域内でしっかりとした合意形成が図られており非常に参考になる。

③ 地域がつながるため池クリーンキャンペーン 明石市 釜谷池協議会事務局 内田博 子どもから年配者まで、皆が気軽に参加できるため池の清掃活動をきっかけに、地域住民とため池管理者の相互理解が深まった。今では漁業者など地区外の人達とも協働しながら、20年間継続している活動を報告した。（4～5頁インタビュー記事参照）

### ④ 島の水瓶「ため池」による治水プロジェクト

洲本市 鮎原下集落 下森啓司

県が進めるプロジェクトに参画し、ため池の貯留機能を向上させ、下流域の洪水発生を抑制し地域防災力の向上に寄与している。

当初、受益者の多くが、治水容量確保のための落水に否定的であったが、集落内の合意形成に至った経緯を報告した。



中瀬館長による講演



# ため池日本一 HYOGO

## ため池豆知識

その1

### 都道府県別ため池数ランキング

- 1位 兵庫県 38,000 箇所
- 2位 広島県 20,000 箇所
- 3位 香川県 14,000 箇所

全国で約20万箇所あるため池の2割が兵庫県に集中しています。



会場旗揚げアンケート

③ため池の多面的機能の発揮の促進に向けた、地域住民が参画する新たな取り組みによって、ため池の適正な管理が促進されることなどが示された。またそれらの取り組みのハードルは必ずしも高いわけでは無いことも明らかにした。

# 「かいぼり」でため池と豊かな海を守る

ため池の水を抜き底の腐葉土を海へ流す「かいぼり」が今年度も淡路地域や東播磨地域で実施された。昔の海を取り戻したいと、漁業者は今、ため池で汗を流している。

## 「かいぼり」復活の鍵は漁業者との協働

### ため池底の腐葉土を海へ

「かいぼり」は池を落水し、水没していた施設を点検するとともに、底に堆積している腐葉土を海へ排出するものです。貯水量の確保のほか、水質改善や外来魚が駆除され、農業のみならず、防災や環境面の効果も注目されている。

「かいぼり」は池を落水し、水没していた施設を点検するとともに、底に堆積している腐葉土を海へ排出するものです。貯水量の確保のほか、水質改善や外来魚が駆除され、農業のみならず、防災や環境面の効果も注目されている。

### 大学生など新たな主体も参加

しかし、翌年の貯水への備えのほか、池の整備技術が向上し漏水の恐れがなくなったこと、腐葉土を流すと下流住民から環境悪化への苦情を受けること、さらに農家の減少や高齢化などから、次第に行われなくなった。

淡路地域では、今年度12箇所のため池で漁業者と連携した「かいぼり」が実施された。洲本市の八京池では、1月に60年ぶりの「かいぼり」を実施した。農業者と漁業者に加え地元企業や大学生など、島内

による、海中の窒素やリンの減少で、最近では養殖ノリの色落ちが深刻化している。

そこで、淡路地域や東播磨地域では、行政が水利組合と漁業協同組合の仲立ちを行い、約10年前に両者の交流協議会などを設置した。春までには満水にしたい水利組合と、海域に栄養分が不足する漁業者で実施時期の調整等について意見交換を行いながら、毎年「かいぼり」に取り組んでいる。



洲本市五色町「八京池」

海に流した。「かいぼり」は、従来からの取り組みではあるが、手法を見直しながら、新たに漁業者の参画を得て再開している。これに、地元企業や学生などが、さらに加わるという好循環を生んでいる。

従来のため池保全活動の継続が困難になりつつある中、「かいぼり」の復活した事例は、ため池保全活動に新たな主体の参画を求め、適正な管理の維持を検討する時期が来ていることを示唆するものである。



# 「ため池保全県民運動」この人に聞く 第1回

～ 多様な主体との連携によるため池保全 ～

**釜谷池協議会事務局 内田 博**  
**インタビュアー 工藤 和美**



インタビューの様子

## 1 はじめに

**工藤** 釜谷池群は、何度か訪れたことがあります。4つの重ね池に遊歩道が整備され、堤体から明石海峡大橋が眺められますよね。あのような素敵なお池になるまでの話をお伺いしたいと思います。

**内田** 私は元明石市職員で、平成4～6年頃にため池に関わる仕事をしました。当時の釜谷池はたくさんゴミが捨てられて、周囲にフェンスを張っているため管理しづらく、堤体には樹木が生えて歩きにくい、ひどい状態でした。その重ね池の

ため池を地域の財産と位置づけ、その保全に努める釜谷池協議会(明石市)事務局の内田博さんに活動内容を伺いました。釜谷池協議会はため池クリーンキャンペーン活動がきっかけで組織され、水利組合と自治会が協働し様々な活動を実施しています。このたびクリーンキャンペーンの取り組みが20年を迎えました。

## 2 ため池クリーンキャンペーン

**工藤** 釜谷池がゴミ捨て場のようになっていたなんて、今の様子からは想像もつかないですね。

**内田** はい。自分が関わ

りせつかく整備したため池を、またひどい状態に戻したくないと思って、たところ、県から「ため池クリーンキャンペーン」(以下:「ため池CC」とい)う清掃活動を提案されました。

**工藤** それが20年前なのですね。その時の水利組合の皆さんは、どんな反応でしたか。

**内田** 「ため池CC」は、ため池周辺に居住する皆さんにも清掃に参加していただく取り組みです。当時水利組合からは、組合員以外の人達を池の管

にも携わりました。**工藤** 内田さんは釜谷池の受益農家ではないのですか。**内田** はい。その後釜谷池群の保全にソフト事業で取り組み、住まいが近いこともあり、協議会事務局を務めることになりました。

### インタビュアープロフィール

**工藤 和美 (くどう かずみ)**  
 国立明石工業高等専門学校 建築学科教授

全国有数のため池集積地である東播磨地域を対象に、集落の土地利用や空間構成を明らかにすることで、ため池の水利用の仕組みと水環境、および景観の保全に関する研究に携わる。



### 地域住民との協働

**工藤** 地域住民の皆さんはどうでしたか。**内田** 住民の皆さんは、どこまで協力をしていただけるか不安でした。しかし自治会役員の方々も、私と同じような思いをお持ちで、広く呼びかけていただいた結果、「ため池CC」当日は多数の参加者がありました。

**工藤** 「ため池CC」では、具体的にとのようなかことを言っている時代ではないだろうと、水利組合内の合意を図り「ため池CC」を受け入れてくれました。

**内田** 水利組合の方が草を刈り、地域住民の皆さんはゴミや刈り取られた草を集めます。当初は自転車やバイク、引越しのゴミなどが捨てられ、集められたゴミはトラック何台分にもなりました。

**工藤** 「ため池CC」の活動は、回を重ねる中でどんな工夫をしてこられましたか。

**内田** 清掃活動は、冬の早朝に集まっていたので、何か必要だろうと思ひ、暖かい焼芋、花の苗や球根をお礼の意味を込め配りました。

**工藤** 何かお楽しみを作ろうということですね。「ため池CC」を続ける中で何か変化を感じましたか。

**内田** 「ため池CC」は地域住民の方々と水利組合の皆さんとの交流の機会になり、その後の様々な活動につながったと思います。

**工藤** また、今では、毎日大変多くの方が釜谷池群を訪れ、散策したり釣りをしたりするようになりました。釜谷池を愛すると言え大袈裟ですが、ため池が地域の皆さんから可愛がられるようになったと感じています。

### ため池愛を育む

**内田** 「ため池CC」は地域住民の方々と水利組合の皆さんとの交流の機会になり、その後の様々な活動につながったと思います。

### 3 釜谷池協議会組織化

**内田** 私たちの活動が、継続してきたのは、活動を支える組織があったからだと考えています。

**工藤** ため池協議会のことでですね。

**内田** はい。15、16年前だと思いますが、「ため池CC」が定着してきたので、何か新しいことにも取り組もうと「ため池の魅力再発見ウォーキング」を実施しました。歩きながら野鳥の観察や、土筆を摘んだり、私も初めてでしたが鯉の背ずりを見たりしました。

その時、釜谷池群に関して様々な意見が出ました。そこで、みんなが話合える恒久的な場があればいいなということになり、協議会を発足しました。

**工藤** 協議会活動はうまく始まりましたか。

**内田** 最初は、池の周りで倒れる恐れがある樹木について話し、伐採してその後に桜の木を植えることになりました。水利組合が雑木を伐採し、地域住民が倒した木を運び出し、協働作業で桜を定植しました。また、夏の水やりは地域住民が、手分けして行いました。

そして定植作業の後には釜谷池の水で作った米のおにぎりや豚汁を食べながら、参加者でいろいろな話をするのが恒例となりました。これが水利組合

員と地域住民が打ち解け、相互理解が深まるひとつの仕組みだったと思います。

#### 多様な主体との連携

**工藤** ため池の水を使って採れたお米や野菜を食べて繋がるのが、ため池協議会らしくていいですね。協議会は水利組合と自治会の他どんな人達が参加しているのですか。

**内田** 釣りクラブ、漁業者、学校関係者などです。その他、釜谷池に来る人なら誰でも入れます。もちろん協議会に入っていない人も行事には参加できます。

**工藤** 釣りクラブとは。

**内田** 岩蛇池ではヘラブナ釣りが盛んで、常連さ

んが毎日釣りを楽しませてもらおうお礼にと、堤体の草を刈ったり、「ため池CC」に参加したりしています。

また、明石沿岸で養殖されているノリは、近年海水の栄養分が不足し色落ちが生じています。その改善のために7、8年前から行っている池底の腐葉土を計画的に放流し、豊かな海を取り戻す「里海連携」にも協力しています。

これがご縁で釜谷池の「ため池CC」やお花見には、漁業者の方達も毎年参加して下さいます。

**工藤** さらに連携は続きそうですね。

毎年、約250箇所のため池で15,000人以上の参加者を得て展開しています。地域住民には、まずため池へ足を運ぶ機会となり、ため池の存在や良さに気づく絶好の機会となっています。



清掃活動

### 4 今後のため池協議会活動

**工藤** 協議会活動を通じて自助の意識が芽生え育まれているということですね。

活動を通じて、これから地域住民と協働活動に取り組む地域へ、アドバースをお願ひします。

#### ピンチはチャンス

**内田** アドバースになるかどうかわかりませんが、このため池でも高齢化や農家の減少などで、管理は難しくなりつつあると思います。しかし私は協議会の活動を通じて、ピンチはチャンスと捉えるべきだと思っています。

ため池には散歩、釣り、野鳥観察、いろんな人がいます。皆さんがため池を大切に思っています。そういう方々の協力を得ながら保全活動に取り組むことが、ため池を美しく、また管理しやすくすることになると思います。

まずは地域の人達に声をかけ、ため池を守る活動に参加してもらおう。「た

ない」という意識が変わる動きが定着してきたと思います。協議会の自主的な活動

め池CC」は、誰もが参加できるちょうど良い行事だと思います。そして行事に参加した人達をお客さん扱いせず、作業してもらったことが、ため池への愛着を育むことにつながっているように感じます。今、振り返ると、このハードルは、思うほど高くなかったというのが実感です。

**参加者全員で役割分担**  
**工藤** 釜谷池では協働活動の始めの一步が「ため池CC」だったのですね。いずれのため池でも、関わる皆さんがその魅力を再認識するきっかけさえあれば、立場の違いを超えて、協働しながらため池を守っていけるという、勇気が湧いてくるお話を聞かせていただきました。

協議会の活動を通じて、釜谷池が未永く地域に愛されることを期待しています。本日はありがとうございました。

#### 身近な環境は自ら守る

**工藤** 活動の幅が増えていくようですが、協議会活動を通じて会員の皆さんに意識の変化などはありますか。

**内田** どの活動も協議会で話し合い取り組んできました。その中で、当初は行政頼みだったのが、次第に「この身近な環境は自分たちが協力して守らなければなら

ない」という意識が変わる動きが定着してきたと思います。協議会の自主的な活動



## 皆様からのお返事を お待ちしております

### ため池保全県民運動 促進中

県では「ため池の保全等に関する条例」において、以下の2点に取り組むことを明らかにしました。

- ため池の適正な管理
- 多面的機能の発揮の促進

この条例に基づき、県民一人ひとりによる、ため池の保全活動を「県民運動」として促進しています。

### ひょうごため池だより 創刊

県から皆様へ送付する「お便り」は、年間3回その時期にふさわしい内容で構成する予定です。

管理者の皆様からも、ご意見や情報をいただき、双方向で情報の共有を図る言わば文通を始めたいと思っています。

返信用封筒を同封しますので、アンケートの回答やご意見など、返信いただければ幸いです。

お手数をおかけしますが、地域の財産であるため池を、次代に引き継ぐための新たな取り組みの一つであるご理解いただき、ご協力をお願いします。

**返信用封筒で  
お返事ください!**

## ため池保全県民運動 促進中!!

県では、ため池や疏水に関する取り組みやイベント内容を、広く県民に伝えるため、以下のとおり情報を発信しています。

- ひょうごため池新聞(月刊)  
送付などのご希望は、下記問い合わせ先までご連絡ください。
- 農村環境室ホームページ  
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/org/nosonkankyo/index.html>
- フェイスブック「ため池保全県民運動」ページ  
<https://m.facebook.com/hyogo.tameike>

▼ため池保全県民運動フェイスブックQRコード



メダカのコタロー▲ ため池マン▲  
ため池保全県民運動公式キャラクター

ひょうごため池新聞▲

フェイスブック  
「ため池保全県民運動」ページ▲

ひょうごため池だより 平成29年3月 創刊号

【問い合わせ】 兵庫県 農政環境部 農村環境室  
〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1  
TEL: 078-362-3432 FAX: 078-362-9455

### 編集後記

慣れない新聞形式のお便り作成に奮闘の1weekでした(香)  
アンケートの返信をお待ちしております(彦)  
取材に協力いただいた工藤先生、内田さんありがとうございました(祐)  
今後も管理者の皆さんにたくさんの情報をお届けしたい  
と思います(稚)